

令和元年度 第 1 回熊本市交通事業運営審議会議事録(要旨)

1. 日 時:令和元年 10 月 4 日(金) 午後 15 時から(約 60 分)
2. 場 所:熊本市交通局 3階会議室
3. 出席委員:6 名
池上恭子委員(会長)、高江康明委員、橋本淳也委員(副会長)、福田和歌子委員、福西江玲奈委員、吉村尚子委員(50音順)
4. 事務局
大関次長、島田首席審議員、河本総務課長、伊藤運行管理課長、前田総務課長補佐
他事務局(3名)
5. 傍聴者 0名 ※報道機関 1 社(熊本日日新聞社)
6. 次 第
 - I 開会
 - II 委員紹介
 - III 委嘱状交付
 - IV 管理者挨拶
 - V 会長・副会長選任
 - VI 議事

(1) 経営戦略の策定に向けて
 - VII 閉会

7. 議事録

事務局より議事(1) 経営戦略の策定に向けてについて説明	
事務局	昭和 30 年代が市電の最盛期、その約5年後に市営バスの最盛期を迎えたが、経営が芳しくなかったバス事業を民間バス会社(主に熊本都市バス)へ移譲。その後数年経過し、熊本市からの補助金を受けながらもなんとか黒字経営が出来るようになってきた現在、今後の経営について委員の皆様からご意見をいただきたい。
委員	人件費・運転士の問題について、新型車両導入の際に自動運転化について検討されているのだろうか。
事務局	路面電車に関しては、自動車等々との共存の関係もあり現時点では実証実験を行っていないが、近い将来自動運転を取り入れる可能性はあり得る。

委員	<p>市電は、人を乗せて運ぶ中で「夢」や「楽しさ」を沢山盛り込める分野であると思う。人が関わる事で楽しい場所に変えられたら。バスと異なり、市電は前方以外に顔を向け車内全体が見渡せる状況にあるので、乗客一人一人が自分で出来ることをボランティアとして行えばあたたかいコミュニケーションの場となり、市電を利用したいと思う人が増えるのではないか。</p>
委員	<p>自身の実体験で、ベビーカーを持っているため低床でない車両に乗れない、B系統の本数を増やして欲しいなど思うこともあったが、今回の審議会に参加して交通局の努力が分かり考えが変わった。自分以外にも、同じように、現状を知らず交通局に対しての要望を持っている方は多いと思う。交通局が行っている努力を周りへもっとアピールするべきでは。</p>
	<p>免許返納したご高齢の方、近所の方で市民病院までの延伸を心待ちにしている方がとても多い。交通局のみで決められないとは思いますが、延伸計画は予定通り実施されるのだろうか？</p>
事務局	<p>先日、議会でも延伸関係の予算が凍結解除され、市長事務局で延伸計画の基本設計について進めているところ。</p>
委員	<p>本当に様々な取り組みをされていることが分かった。運転士が嘱託職員と聞き驚いたが、他企業の乗務員に比べて流暢な英語でアナウンスされていたり、オリジナリティがあったりと、正社員に劣らない対応をされており安心して乗っていただける。運転士の募集をかけても応募状況が厳しいとのことだが、運転士への待遇改善を検討してほしい。</p>
委員	<p>公共交通を取り巻く時代の変化に対応し、市電の果たしている役割を考えた経営戦略を考えることが重要だ。また、車両にしても軌道にしても、ハード面での問題が大きく、コストも時間もかかるため、先を見越した戦略を立てていくことが重要だと思う。</p>
委員	<p>最近市電に乗っていなかったため、今回の審議会に参加して「市電に乗りたい」思ったが、バス・車との乗継の事を考えると気軽に利用することが出来ない。乗継案内や料金案内等、バスと市電の連携について利用者が使いやすく感じる提案をしていただけたらと思う。</p>